

スペイン語教室特別講座

清泉女子大学名誉教授吉田彩子先生をお迎えして＜第 2 回＞

ースペイン演劇の名誉と森鷗外のカルデロンの翻訳ー

清泉女子大学の吉田彩子先生をお迎えしての特別講座＜第 1 回＞は、『ドン・キホーテ』を読むための基礎知識と『ドン・キホーテ』を楽しく読み解く、の 2 部に分けてお話いただきました。

今回は、先生のご専門であるスペイン 17 世紀文学の研究の中から、カルデロンの作品『サラメアの村長』とそれを翻訳した森鷗外に焦点を当ててお話いただきます。

以下は吉田先生よりの今回の講義の内容についてのご説明（抜粋）

森鷗外は明治 21 年（1889 年）カルデロン作『サラメアの村長』を翻訳し、第三木竹二を共訳者として、歌舞伎の世話物風に仕立てた。坪内逍遙がシェークスピアの『ジュリアス・シーザー』を翻訳したわずか 5 年後のことである。

翻訳は『読賣新聞』に 12 回に分けて発表されたが、連載は訳者側の判断でいったん中止となった。読者の評判が芳しくなかったためと推察される。饗庭篁村、山田美妙が説得にあたり、鷗外をなだめて、連載は再開された。しかしそのようにして完成された翻訳には、一カ所、原文に対する改ざんが加えられていた。

鷗外はなぜ『サラメアの村長』を翻訳したのか。翻訳の不人気の理由はなんだったのか。そして原作に対する改ざんはなぜ行われたのか。答えはスペイン黄金世紀演劇独特のテーマである「名誉」にあった。『サラメアの村長』に表われる名誉とはどういうものなのか、鷗外はそれをどのように理解したのか。鷗外のカルデロン紹介をとおして日本のスペイン文学受容について考える。

開講日時： 2019 年 9 月 20 日（金） 13:00～15:00（途中休憩 10 分）

場 所： かながわ県民センター（横浜駅西口より徒歩 5 分）1501 会議室

参 加 費： 会員 1,500 円 非会員 2,000 円

尚、吉田先生には、10 月から来年 3 月まで 6 回に分けてセルバンテスの『模範小説集』を読むという題で第 3 回の特別講義を行っていただく予定にしております。ご案内は、近々させていただきます。

お申込み&お問い合わせ：

スペイン語クラスの受講者は下記の申込書を各クラス委員にご提出下さい。クラス受講者以外の方はメールで以下の担当者までお申込み下さい。

Spanish_class@yokohama-spain.jp 福長/岩田

お申し込み締め切り日： 2019 年 9 月 10 日

-----切り取り-----

スペイン語教室特別講座申込書

2019 年 月 日

氏名 _____（会員・非会員）

スペイン語クラス名 _____

電話番号 _____

E-Mail _____